

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第1部門第2区分

【発行日】平成25年7月11日(2013.7.11)

【公開番号】特開2012-29766(P2012-29766A)

【公開日】平成24年2月16日(2012.2.16)

【年通号数】公開・登録公報2012-007

【出願番号】特願2010-170351(P2010-170351)

【国際特許分類】

A 6 1 B 6/00 (2006.01)

【F I】

A 6 1 B 6/00 3 9 0 C

【手続補正書】

【提出日】平成25年5月28日(2013.5.28)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

X線を照射するX線源と、

前記X線源と対向配置され、被検体の透過X線を検出して電気信号に変換するX線検出器と、

前記X線の照射領域を制限するX線絞り手段と、

前記X線の照射領域を示す可視光を照射する光照射手段と、

前記X線源と前記X線検出器との間の距離を測定する測距手段と、

前記測定された距離に応じて、前記可視光の物理量を変更する可視光変更手段と、

前記電気信号に基づいて前記被検体のX線画像を生成する画像処理手段と、

を備えることを特徴とするX線画像診断装置。

【請求項2】

前記可視光変更手段は、前記測定された距離と、前記被検体のX線撮像において要求される前記X線源と前記X線検出器との間の距離を示す要求値との差分に応じて、前記可視光の物理量を変更する、

ことを特徴とする請求項1に記載のX線画像診断装置。

【請求項3】

前記可視光変更手段は、前記差分に応じて、前記可視光の照射間隔、輝度、又は色のうちの少なくとも一つを変更する、

ことを特徴とする請求項2に記載のX線画像診断装置。

【請求項4】

前記差分に相当する数値を前記可視光により投影する投影手段を更に備える、

ことを特徴とする請求項1乃至3のいずれかに記載のX線画像診断装置。